



先輩が後輩を育てる…
指導者は生徒の
『主体性』や『自助能力』を
信じて任せ、じっと我慢!

浜松開成中・加藤先生による

生徒の心に火をつける 吹奏楽指導

中学生でもできる!
生徒主体の基礎練習!



いかに飽きさせず、
やる気を起こさせて
練習をさせるか!

毎日様々な業務に追われて忙しい中学校の指導現場…きちんと指導したいが時間が足りず、かといって単なる生徒任せでは「やらされている」感があって質の高い練習ができない…そう感じている先生方は多いのではないでしょうか。

このDVDでは『生徒の心に火をつける基礎練習』をテーマに、どんな切り口で練習を組み立てていけば顧問不在時でも内容の濃い練習に取り組むことができるのか、また、その練習がどのようにして素晴らしい演奏につながっていくのかをご覧いただけます。

「吹奏楽の聖地」と言われる浜松で輝かしい実績を残している浜松市立開成中学校では、どのようにして生徒主体の練習がされているのでしょうか?加藤先生は決して難しいことを指導している訳ではありません。指導者は生徒の『主体性』や『自助能力』を信じて、じっと我慢することが大事になります。

いかに飽きさせずに生徒のやる気を引き出しているのか、その生き生きとした日々の練習の一端をお楽しみください。

M75-1 (94分)

生徒主体の基礎練習

M75-2 (101分)

基礎練習を生かした曲の指導

指導・解説

加藤 幸太郎

浜松市立開成中学校
吹奏楽部 顧問



“心の育成”を基盤に据えた指導を信条に、浜松市内の赴任校を静岡県を代表する吹奏楽部に育て、全日本吹奏楽コンクールへ4回、東海吹奏楽コンクールへ16回、中部日本吹奏楽コンクール本大会8回の出場へと導く(平成30年2月現在)。また、平成29年7月には浜松市立開成中学校吹奏楽部を率いて、日本の中学校では初めての『台湾国際音楽祭 “10th Annual Taiwan Clinic”』出場、台北市役所での演奏会実施など招聘遠征を実施。平成6年度には文部大臣奨励賞、平成15年度には浜松市教育文化奨励賞を受賞。平成16年度から22年度にかけては浜松市文化政策課指導主事として、浜松吹奏楽大会をはじめ、ジュニアオーケストラ・ジュニアアカデミー浜松の育成、こどもミュージカルや国民文化祭など数多くの事業を手がけ、浜松市の進める「音楽のまちづくり」に取り組む。

実技協力:浜松市立開成中学校 吹奏楽部

商品番号 M75-S

全2巻 16,000円+税
各巻8,000円+税(送料別)

送料一律

500円+税

代引

カード払い

ご相談ください

公費対応



ご希望の商品番号を指定し、DVD通販サイト、電話、FAX、もしくはハガキにてお申し込みください。受注確認後、3~6営業日内でお届けします。

お申し込み・お問い合わせはお気軽にお問い合わせください。

JLC ジャパンライム株式会社

TEL.03(5840)9980

FAX.03(3818)6656

〒113-0033 東京都文京区本郷5-25-14 本郷竹下ビル4F

2018.02



ジャパンライムDVD通販サイト <http://www.japanlaim.co.jp>

新規会員登録でお得なポイントプレゼント!

生徒の心に火をつける吹奏楽指導



M75-1(94分)

生徒主体の基礎練習

毎日行っている練習である基礎合奏は、顧問の加藤先生ではなく音楽リーダーの指導で生徒たちが自主的に行っています。一人ひとりがきちんと楽器を鳴らす、息を入れる、音を最後までしっかり伸ばすことを意識。歌と楽器を併用しながら行うこと、合奏の隊形をシャッフルして変えて行うことなどが特徴です。



■はじめに

■木管楽器の奏法チェック

頭部管、リード、樽、ネック、マウスピースで基本となる音、チューニングを確認し、その後、楽器で音、奏法をチェックする。一番理想的な口の中の形、大きさ、噛み方などを確認する。

■個人チューニング(一人ひとりの音感トレーニング)

キーボードで純正調の音を鳴らし、その響きの中に自分の音を入れていくという音感のトレーニング。B♭～Fまで音階で下りていき、F→C→A→B♭。音階を、音感として体で捉えることができるようになる。

■シャッフルで飽きさせない基礎合奏

○チューニングリレー

スコアに書かれている楽器の順番で、一人ずつ4拍でチューニングのリレーをしていく。

○バランス練習

A(低音グループ)、B(中音グループ)、C(高音グループ)、D(最高音グループ)に分かれて、音を積み重ねていく練習。

○スケール練習

中低音の楽器がハーモニーグループ、それ以外の楽器がスケールグループに分かれて行う。3度の音を少し低めに取ることを意識させる。

○ハーモニー練習

楽器で演奏する前に、歌で音程を取り響きを確認し、3度の音は少し低めに、5度の音は明るめに取る。頭に中で始めの音をイメージして出だしの音から全員でハーモニーが作れるようにする。

■練習計画について(指導者インタビュー)

○休日の練習 ○練習計画の立て方

○生徒主体の練習でのポイントは?

- いかに飽きさせずにやる気を起こさせて練習をさせるか
- 生徒リーダーをきちんと育てていく

◎153の練習

ハーモニー練習で用いた和音を主音5音3音の順に積み重ねていく。主音・5音・3音それぞれの役割を認識し、いい響き、ハーモニーを体感する。

◎ABCD積み重ね練習

A(低音)、B(中音)、C(高音)、D(最高音)に分かれて、音を積み重ねていく練習で、低音部から始める練習と高音部から始める練習を行う。

◎リズム練習

4分音符、8分音符、3連符、16分音符の4つのリズムで、それぞれ前半はテヌートで音を張って、後半はスタッカートで音のスピード感を統一するようを行う。

◎基礎合奏のまとめ

M75-2(101分)

基礎練習を生かした曲の指導

合奏をする上で心がけている4つのテーマ『①しっかり楽器を鳴らす／②ハーモニーとフレーズ／③歌の活用／④流れ』ごとに、どのように曲の指導をしていくかについて紹介しています。特に、個人の基礎練習や基礎合奏が、いかに曲作りにとって大切な実感させるような指導を行っています。



■4つのテーマを軸にした楽曲合奏

①一人ひとりの生徒がしっかり楽器を鳴らす

荒削りでもいいのでスケールの大きな演奏をつくるために、鳴らし方・音色、音の長さや音の処理の仕方にはこだわりながら、しっかり楽器を鳴らす指導の仕方を紹介する。

♪演奏曲

バレエ音楽「ガイーヌ」よりPrelude
(作曲:A. Khachaturian)

主な指導内容

○フォルテシモの吹き方(ファンファーレの部分)

- チューニングリレーの形式で一人ひとり順番に演奏する
- 頭からフォルテシモできちんと4拍吹けているか
- 発音、音量、音の長さを全員で揃える

○タイのついた部分と3連符の音の処理

- 音がディクレッシェンドしないように最後まで音を張る
- 全員がフォルテシモで、発音から音の最後までを音を張って均等に鳴らし続け、長さを揃える

○難しいリズムの部分の確認

- 基礎合奏のリズム練習で行った内容をやってみる
- 音の入り方、スピードを揃える
- 発音、音の張り、音の長さ、ハーモニーを揃えることで演奏が変わる
- クレッシェンド、フォルテシモなどダイナミクスを全員で統一する

②ハーモニーとフレーズ

ハーモニーの進行とフレーズの歌い方についての指導の仕方を紹介する。

♪演奏曲

マーチ「春風の通り道」(作曲:西山知宏)
※2017全日本吹奏楽コンクール課題曲IV

主な指導内容

- メロディー以外のグループで演奏する
- 裏拍の音を表拍に変え、同じ音符が続いたときは2分音符で吹く
- フレーズのどこに山があり、どこから上りどこから下るかなどを考える
- 全員が連動していいハーモニーをつくり、山場はどこかを考える
- 物語を考えながら楽譜どおり吹いてみると
- 自分で音楽を考えフレーズを考え表現する

③曲練習の中でも歌を最大限活用する表現>

歌うだけで表情が変わり、それが演奏するときの表情に変わり、音色や音楽の表現も変わっていくことを実践する。

主な指導内容

- 課題曲のTrioの部分につけた歌詞を歌う
- 各パートをAとBのグループに分け、一方が歌いもう一方が演奏する
- あるパートの生徒が歌っている場合は横の人が代わりに吹くなど、臨機応変に対応する
- どこに山があるかを理解した上で演奏する
- 歌ったように演奏し、全体で表現する

④自分たちで自発的につくる<流れ>

音楽では「流れ」が最も大事。いい流れの演奏は自然に音程も音色も良くなり、フレーズ感も出てくる。そして音楽の表現の幅が広がる。音楽は流れが止まると魅力がなくなるため、人に引っ張られる前に自分で歩くことを指導する。

主な指導内容

- 音楽が生きるかどうかは、自歩できるかどうか
- 音楽には流れが必要
- 音楽の流れをつくるのは演奏者自身

○楽曲合奏のまとめ

■部活運営について(指導者インタビュー)

○開成中の特徴は?

- 先輩が後輩を育てる、その関わりの濃さが開成中のチーム作りのポイント
- 父母会の存在
- 親和的関係づくり